



農の暮らし ~ 自給自足社会に向けて ~ 第19回

いのちを食べて生きている私たち。私たちの生活を支えている農のこと、そして自給自足の暮らしについて、もっと身近に感じてみてください。



ピアニストのエコ生活 池宮正信さん
高校時代の1962年に渡米、オーペリン音楽院、インディアナ大学大学院を修了後、ピアニストとして音楽活動に没頭し大都会ニューヨークに長年住みました。

『地球村』との出会い

2001年5月にニューヨークの国連本部に来られた高木さんの話を伺う機会を得、帰国時にも何度か『地球村』の講演会に参加し、地球環境の深刻さを益々知るようになりました。そして、都市生活をし、生きるために起こる種々の環境破壊が益々気になっていきました。衣食住に関わることを最小限にとどめ、地球を「傷つける」ことを少なくしたい。「簡素で自然と調和する持続可能な生き方」を自分のできることからやっていきたいと思うようになりました。こうして、私の職業である演奏活動と、環境を守る自給自足生活(エコ生活)の両立実行に思い切って踏み込んだ訳です。

メイン州の森の中で妻と本格的な自給自足生活/エコ生活を目指し始めて7年目になります。私達の畑は化学肥料、農薬、殺虫剤を使わない自然と調和する有機農法や自然農法をしています。ありがたいことに小規模の我が農園、ピースファームは食料に関しては自給自足に近付いています。

5人にひとりとは失業者といわれるアメリカの食糧難は、益々悪化する傾向です。新鮮野菜や果物は困っている人々の必需食だと思います。今やご近所、友人、時にはホームレスシェルター、フードバンク(無料で食品を貧しい人々に提供する所)に収穫物をもらっていただけるほどの余裕ができました。これからも寄付できる農作物を毎年増やしていくつもりです。

エコ生活の楽しい工夫

メンテナンスフリーの果樹・木の実園を目指し、各種の木を植えました。私達が生きている間にたくさん実が成るとは限りませんが、次の世代の人たちに食べてもらうことを想像するのは楽しいものです。実際百年以上前に誰かが植えた古い品種のりんごの木は、毎年その村の多くの人々の食料源となっています。冬の間の食料も豊富です。収穫期に調理した瓶詰め、漬物、冷凍、乾物などの食品、地下貯蔵庫に保存している根菜類、果物類。ヒーターなしの温室で育てる新鮮野菜。菜食の我が家ではどれもご馳走です。

井戸水が私たちの生活用水です。地下水も限りある資源、過度の使用で地盤沈下を引き起こすこともあります。私はいくつもの大きな貯水タンクに樋から雨水を溜め、風呂や畑に使っています。畑の真ん中に作った貯水池に溜まる雨水は、乾季の畑用水遣りに活躍。その池はカエルが住み鳥が遊び、小動物にも人間にも憩いの場、楽しいスペースです。水節約の一環で水洗トイレを廃止し水を使わないコンポスト(堆肥)トイレにしました。この肥は、一年以内に堆肥に戻り畑



の肥料として循環させます。通常、冷暖房の電気や石油、ガス消費は大きいものですが、我が家では一切使いません。家はソーラーハウスでコンクリート床、夏は涼しく冬には保温効果が高く暖かです。ソーラーの床暖房と共に再生可能な資源による薪ストーブが活躍します。薪ストーブ内には水が通るパイプを付け、湯が熱すると家全体に配管したラジエーターを巡ります。この湯は温水器をも巡り、風呂などに使う熱い湯を供給してくれます。移動のための化石燃料の消費を押さえるには工夫が必要です。地元にいる間だけでもその消費を抑えたいと考え、森の中は徒歩移動、近くの町へは自転車、少し足を伸ばす時の自動車はハイブリッド車。公共交通機関が極端に少ない田舎、自家用車に頼りがちです。近隣の友人達と声を掛け合い、可能な場合はカープーリング(自動車の相乗り)の工夫をしています。

頼もしい仲間たちと共に

エコ生活は地球に優しく健康にも良く、お金と関わりの少ない生き方です。ここではセカンドハンド(中古品)の店や友人との物々交換で欲しいものはほとんど手に入るし、家で不要品は寄付できます。必要なものを必要な人に循環させると無駄がなくなりお金の必要は減ります。間伐材運び、薪割り、畑仕事、そして自然の中のサイクリング等、どれも楽しく、運動不足になりがちな音楽家生活には、程よい運動で、私の健康保持に役立っています。



なんとありがたい生活スタイルでしょう。私たちの町には米国初の環境大学があり、自然世界と共存することを学び実践する場になっています。また、メイン州には個人から大きな農家、酪農家まで加わる、有機/自然農法を目指す人々の組織があり、数多くの学びの場を提供しています。目

指す方向を同じくする仲間が多いくことは心強く有難いことです。

実りの秋に我が家でチャリティーコンサートをすることがあります。コンサート後、薪ストーブの上で調理した有機野菜料理を地域の人々といただく。永続可能で平和な社会へと、横のつながりを強める心温まるひと時です。みんなと心を合わせればこの世界はきっと良くなります。有機農、自然農を営む人々はじめ、画家、教師、作家、神父、詩人、医者など、工夫を凝らし贅沢を止め環境を守ろうと志す彼らを頼もしく感じます。母なる自然の恩恵と、人々の心をつなぐ音楽に感謝するひと時です。このような生活に飛び込む決心の後押しをして下さった高木さんや『地球村』の皆さんに心から感謝すると同時に敬意を表します。地球村通信は日本とアメリカをつなぐ大きなインスピレーションとなり、地域の人々と時々情報を分かち合っています。 <写真:有機肥料となる海藻集め、池宮夫妻>



池宮正信

<http://www.ikemiya-masanobu.com/>
クラシック/ラグタイム ピアニスト。「愛と平和」のメッセージを聴く人々の心に訴えるユニークなコンサート活動を日米中心に続ける。1991年国連本部から「最高の音楽家」として表彰される。メイン州で国際的音楽祭を創立主宰し24年間音楽監督を務め、州議会から文化賞受賞。在米48年。題名のない音楽会、徹子の部屋などに出演。BMG他からCD多数。2010年7月ヤマハミュージックメディアから楽譜「ピアノ曲集・ラグタイムを弾こう!」を出版。

このコーナーに登場していただける方を募集しています。自薦他薦問いません。メールでご連絡ください。
mail: tusin@chikyumura.org